

# ささやき

第40号

編集・発行 特定医療法人 明和会 琵琶湖病院  
聴覚障害者外来スタッフ

FAX 077-579-5487  
TEL 077-578-2023

## 本館第一期工事完成

かねてより患者さん、関係者等の皆様にご迷惑をお掛けしておりました当院の改築工事は、このほど第一期工事が終了し、昨年十一月二十六日にテープカットを行い、年末より新館にて外来業務等をはじめます。

今回完成したのは外来部門と男子病棟の一部ですが、全体的にゆとりを持たせた設計を心掛け、病棟は精神療養病棟として運営しています。

地階はレントゲン室などの検査部門で、一階に外来の受付(事務



務室)、二つの診察室、二つの面談室と医療相談室、薬局、外来、心理・相談室などがあり、二丁四階が病棟となっています。

\*ハートビル法に基づいた設計でもありますが、聴覚障害を持つ患者さんのためにキセノンランプのフラッシュの付いた警報装置が病棟や病室にも設置され、振動等による呼び出し器なども導入予定となっています。

また、今回の改築を契機に諸種の業務や事務処理などにIT化

を進める予定です。

なお、旧館の取り壊しと第一期工事着手のため、向こう一年間あまりは工事が継続されますので、皆様方には引き続きご迷惑をお掛けすることになります。何卒直しくご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

\*ハートビル法とは

高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律の通称です。



(この表示板の下がキセノンランプになっており、火災報知器に連動してフラッシュが点滅します。)

「コラム1」全国聴覚障害者福祉研究会「に参加して

B7病棟 看護師 斉藤 悦子

03年11月29・30日と第7回全国聴覚障害者福祉研究会交流集

流集會に参加してきました。

日本全国から、541名(31都道府県)の参加でした。

初日はあいにくの雨天でしたが、建物の中には熱気が溢れていて再会を喜び合う姿でいっぱいでした。

2日間の交流集會の内容を簡単に紹介します。

まず、「全国手話研修センター」設立のニュースです。場所はJR嵯峨駅の目の前です。もうすでにオープンしています。手話研修に関するあらゆる情報機器などが揃っている施設ですので、関心のある方には見学をお勧めします。但し見学には、2名以上の参加による事前予約が必要とのことでした。

次に、「ほのぼの屋レストラン」からの報告です。京都府舞鶴市でフランス料理を客に提供する共同作業所です。シェフは一流のフランス料理人だそ

うで、地元での評判は上々ということでした。

私が参加した分科会は「こころの健康を考える」でしたが、盲ろう合わせ持つ方の問題などが話し合われました。聴覚障害者の方にとっての「目の大切さ」が話され、杖や電磁調理器の導入予定が報告されました。目の重要性を認識させられました。

また、支援費制度に関する報告もありました。それから、私がハツとさせられた言葉を紹介します。「今、居る場所が温かい場所であれば、次のステップへの意欲は生まれて来ないのではないか」という内容の言葉でした。

最後に、来年度は、04年11月13・14日に大阪の守口市での開催となります。

「コラム2」救急病院での体験

A1病棟 看護師 柴田 恵里

移動に伴い、11月から聴覚障害者外来のスタッフになりました。以前の病棟では聴覚障害の患者さんがおられたので、日常、手話を使う機会も多かったのですが、今は全く手話を使う機会がありません。

が、先日娘と救急病院に行った時ある母子に会いました。お母さんが聴覚障害者を持っておられました。とても慌てておられたのですが、子どもを抱いていた為、手話もできず、口話もままならず、看護師につまく状況を伝えられず泣いておられました。その場にいた人達の、冷たい態度にとっても悲しい思いがしました。

私は全く自信がなかったのですが、思い切つて声をかけ、間に入りました。無事診察も終わり、そのお母さんにとても喜んでくれました。こんな私でも役に立てたことが嬉しくもつと手話を身に付けたいと思えました。

これからもご指導よろしくお願ひいたします。



『元氣になって下さい。』



元気

両肘をはり、両手こぶしを同時に上下させる。



なる

手のひらを手前に向けた両手を交差させる。



欲しい

親指と人差し指を開いた右手をのどから下におろしながら閉じる。

《編集後記》

新しい病院になりました。スタッフ一同気持ち良く働いております！